

カルメル

霊性センターニュース



聖誕賛美

フランチェスカ 1462 (テンペラ)

2016年12月

326号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	18
京都	22
名古屋	27
北陸	38
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心の泉





第三卷

第三章 神のみことばは、謙虚に聞かなければならない、

しかし多くの人はそれを重んじない

5 主の訪れ

私のことばを肝に銘じ、そして黙想しなさい。試練の時になれば、それを必要とするからである。今、読んで理解できないことも、私があなたを訪れる時、理解するであろう。つねに私は、選んだ者を二つの方法で訪れる。一つは試練、一つは慰めである。そして日々、これらの人々に二つのことをおこなう。悪癖をとかめることと、徳を勧めることである。

私のことばを聞いて、それをおこなおうとしない者は、最後の日に厳しく裁かれる（ヨハネ12・48参照）。

6 敬虔を願う祈り

主なる神よ、あなたは私の善のすべてです。しかし、あなたにあえて話しかけるこの私は、何者なのでしょう？私は、あなたのしもべのなかでも、もっとも貧しくみじめな、うじ虫にすぎません。それ以上に、みじめな卑しい者です。主よ、思い出してください。私は何も無い者です。何一つ持たず、値打ちのない者です。あなただけが、正しく、聖なるお方です。あなたは何事も成し得、何者も拒まず、すべてを満たすことができます。ただ罪人だけを、み前から退けられます。「主よ、あなたのあわれみを思い出してください」（詩編25・6）。あなたの恵みで私の心を満たしてください。あなたは、み業が実を結ばないことを望んでおられないからです。

いつくしみの特別聖年 それから -12月-

クリスマスおめでとうございます



おん子は 今度 馬小屋にではなく、
わたしの、そしてわたしたちの心に
お生まれになります。

おん子こそ インマヌエル
「わたしたちと共におられる神」なのですから。

～三位一体の聖エリザベット～ *

ご降誕を待つ日々、エリザベットは聖堂にとどまり、そこで神なるおん子を持つ聖母と共に過ごしていました。「そのおん子は今度、馬小屋にではなく、わたしの、そしてわたしたちの心にお生まれになります。おん子こそインマヌエル『わたしたちとともにおられる神』なのですから」との言葉を聖エリザベットは残しています。師走の忙しい雑踏、雑音の中で過ごすわたしたち・・・日々の汚れ、傷が絶えないわたしたちは一体どのようにしておん子を迎えましょう。

福者マリー=ユジェヌ神父は「自分の弱さ、小ささの中で神に信頼するとき弱さから受ける傷は光の源となる」*と言っています。弱さ、惨めさに閉じこもらないで、神の光りに自分をさらすなら、神のいつくしみの愛を輝き出すことができるのです。

こうしておん父のいつくしみのみ顔であるイエスの誕生を待ち、祝い、その喜びを日々人々に証していくことができますように、今年聖人と福者に挙げられた二人に執り成しを願いましょう。



伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『三位一体のエリザベット いのちの泉へ』伊従 信子 ドンボスコ社

* 『いのちの道』写真と文：伊従 信子、サン・パウロ社

人を赦す (36)

くのり
九里 彰

自分の心の汚れ、罪に気づかない人は、自分は正しい人間、義人であるとうぬぼれている。二千年前のユダヤ教の律法学者たちやファリサイ派の人々がまさにそうであった。確かに彼らは表面的には人から非難されるようなことは何一つせず、逆に人からほめられるようなことしかしていない。ほめられることとは、神の言葉である律法を守ることである。しかし、ここに落とし穴がある。

彼らは律法を人一倍熱心に守ることによって自分を誇り、守らない者を罪人として断罪するのである。つまり、律法を守っているかいなかという外的な物差しで、人を裁くのである。イエスのたとえが思い起こされる。

二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。「神様、私は他の人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯すものでなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。私は週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています」。ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。「神様、罪人の私を憐れんでください」。言っておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。(ルカ 18・9～14)

現代でも、律法学者たちやファリサイ派の人々は、各民族の文化伝統の中に、違った形で存在する。彼らは事柄の表面しか見ず、その奥にある神の心を見ない。ユダヤ教の律法は本来、人が人として真に生きる者となるよう、神の憐れみの心から出たものであろう。この心を見誤ると、律法は形骸化し、律法主義が発生する。そしてそれは、人の心も見えなくする。神の憐れみの心をもって、自分の周りにいる苦しむ人を見ることができなくなるのである。

そして何よりも問題なのは、自分自身の心も見えなくなることであろう。自分を正当化し、自分を誇ることにのみ全エネルギーが注がれ、自分が罪人であることにまったく気づかなくなるのである。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (108)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

召命に対する誘惑(2)

十字架のヘロニモ修士の話： 彼は、バエサで 1581 年に修道誓願を宣立した時、聖人の手から修道服を受け取りました。聖人の旅に、何度も同伴しました。野原で聖テレジアの手紙を燃やすのも手伝い、このことを思い出すたびに、憤っていました。要するに彼は聖人の無二の親友だったのです。聖人についてたくさんのかことを書き残しました。彼自身は、修練期の誘惑がどのようなものであり、ヨハネ修士が徹底的にまた永遠にいやしてくれたことを、私たちに物語っています。

ある時、修練者であるヘロニモ修士に聖人が話しをする機会がありました。十字架のヨハネ修父は、祈りや孤独や黙想についてたくさん話をし、ほら穴に隠遁した荒れ地の師父たちや荒れ野の聖人たちの模範を挙げました。「修練者は熱心でしたので、同じように見なされることを望み」、祈りや聖務日禱をしっかり学び、この種の生活を生きることが出来る山に行く準備を、急いでいたと言っています。しかし、彼が山へ行く決意を固めていた時、「どのようにしてミサに与る義務を果たすべきか」という疑問が彼を悩ませ、それが難しくなると思われたので、あえてそのことは相談しませんでした」。

彼は、この考えや疑問の嵐の中を、どう解決してよいかも分からずに歩いていました。内的な戦いが激しかったある日、聖人が共同休憩室に入って来て、いきなりこう言いました。

「だれか何か質問がありますか」。

「だれか何か質問…」と言い終わるやいなや、間髪入れず、彼（聖ヨハネ）は続けて言いました。（ヘロニモ修士の文字通りの報告は、こうです。）「だれも質問しないので、私が質問します」。

修練者は喜んで質問したかったのですが、その間もその必要もありませんでした。というのも、聖ヨハネは、荒れ地の聖人たちが妨げなしに絶えず神と交わることができた孤独や機会について、話し始めたからです。被造物からの妨げなしにそのような生活をする事のすばらしさについて触れながら、このように結びました。「ミサに与らねばならないという教会の命令を果たした後は、もはや何もできないでしょう」と。

(続く)

待降節 第2主日 A (マタイ3:1~12)

本日の福音で洗礼者ヨハネは、悔い改め、回心、そして再生の生活をするにより主の第二の到来への道を準備するように招いています。主の第一の到来であるクリスマスを祝う準備をすることでこのプロセスを始めていきます。

燃えるような激しいメッセージで預言者は決定的な悔悛への呼びかけ、及び自己否定、犠牲、そして他者への愛の奉仕を要求しています。心の中に根付いている憤りと偏見に私たちは斧を置かなければならないでしょう。食欲や放縦を篩にかけなければなりません。忍耐のなさというもみ殻を燃やさなければなりません。

天の王国に入るためのヨハネの条件です。王国の到来はヨハネの主要テーマでした。神の王国は神が中心であり、神がコントロールする生活です。ヨハネはそのような生活を体験するようにのぞみました。この「神の統治」を体験したい人は、自分の生活の中で徹底的な変革が必要です。それは悔い改めへの呼びかけです。態度の変化、心の変化、生活スタイルの変化がなければ、神が支配するルールのもとに入ることはできません。ヨハネは人が何をしたかを糾弾するだけではなく、何をすべきかを命じています。このため、マタイは罪の赦しよりも、よい実を結ぶ新しい生活のほうを強調しました。よい実を結ぶとは、ただよいことをするというだけでなく、正しい理由です。

必要なのは、私たちの生活の中に日々キリストが生まれるようにし、それによりキリストの来臨を準備することです。待降節は、私たちが罪を悔やみ、祈りと痛悔を通して生活を新たにし、他者と祝福を分かち合う準備の時です。「イエスが世界中の何千という飼料桶の中に生まれたとしても、私の心の中に生まれなければ、私にとって何の益があるでしょう？」というアレクサンダー・ポープの言葉を思い出しましょう。ポープが言っていることは、この待降節という季節の間に、そして日々の生活の中で、イエスは私たちの心の中に生まれ、愛、親切、慈しみ、赦し、そして謙虚な奉仕の心をもたらすということです。

私たちは生活の変革に対するヨハネの呼びかけを受け入れる必要があります。心から祈ることで始めましょう。聖なるミサは最も力強い祈りであることを思い出しましょう。ミサは私たちを感謝の民に変え、私たちの心の中にイエスの現存を準備し、私たちの魂の中に神的生命をもたらします。回心は、私たちが会おうイエスを通して、聖書と秘跡を通して行われます。み言葉と秘跡は、神が人間の靈魂に生命を与えるために用いる第一の手段です。罪の赦しを求め、それを頂く日々の神との和解、そして毎月の告解は私たちを強め、ミサの中でより多くの恵みを頂きます。利己心のない謙虚な奉仕で他者と愛を分かち合しましょう。

「小さなことを大きな愛をこめておこなひましょう。」(マザー・テレサ)

(Sr. Paulina)

待降節第3主日

「口の利けなかった人が喜び歌う」(イザヤ35:6)

ノーベル賞作家の大江健三郎が「信仰を持たない者の祈り」と題して行なった講演の中に、イザヤ書の上に挙げた言葉を思い出させる箇所がありました。彼の長男は脳に障害を持って生まれました。そのときに彼が味わった苦悩も大きなものでしたが、子供を育てる苦勞のほうはずっと大きなものでした。最初は目が見えないのではないかと医者から言われ、光と名づけたそうです。目は見えるとわかったものの、耳が聞こえないのではないかと疑われました。知能の障害もあり、5歳くらいまで聞いているかどうかわからないという状態が続きました。あるとき息子が鳥の声に反応することに気づき、ありとあらゆる鳥の声のレコードを買って来てエンドレステープに録音し、子供に繰り返し、繰り返し聞かせました。鳴き声の後に鳥の名前をアナウンサーが告げるようになっていました。

1年ほどたった時、子供の調子がよかったので始めて山の家連れて行きました。妻が別荘の掃除をしている間、大江健三郎は子供を肩車して森の中で待っていました。そのときクイナが鳴きました。すると大江健三郎の頭上で「クイナです」という澄み切った声がしたのです。彼は最初幻聴かと思ったそうです。再びクイナが鳴いて、「クイナです」という声がしたので息子が喋ったと悟りました。すぐに奥さんにそのことを告げると、新しい苦難が始まったのかと思い、怪訝な顔をしたそうです。しかしまもなく本当に子供が話したとわかり、二人は興奮してしまいます。翌朝、光さんは無数の野鳥の声聞き分け、その名を言いました。これでこの子は話せるとわかったので両親は積極的に子供に話しかけるようになり、だんだん話せるようになっていきました。健常者のように言葉で十分に自分を表現できるようにはなりませんが、音楽が好きになり、音楽で自分の内面を表現できるようになりました。口の利けなかった人が「喜び歌う」ようになったのです。

なんともすばらしいことではないですか。霊的な世界に目が開けるときのこともこれとよく似ているように思います。霊的な世界とは、神の愛を感じることに、言い換えれば愛の世界です。光さんが鳥の声とその名を録音したテープを繰り返して何度も聞いたように、私たちも神の愛を知るためには、隣人の誰かが行ってくれる愛の行いを何度も繰り返して経験しなければなりません。長い時間がかかるでしょうが、いつのまにか自分でも真似をすることが出来るようになります。何かきっかけが必要ですが、きっかけがあり、温かく見守ってくれる人がいると真似が出来るようになります。光さんが「クイナです」といったように。それからすでに霊的な世界(愛の世界)を生きる人に導かれて、だんだんに成長していけるようになります。

まず繰り返して何度か愛を経験する必要があります。これは誰でも本当は経験しているはずなのです。見逃すことも気がつかないことも、また気がついてみようとしないこともあるでしょう。しかし、その人を批判してはいけません。自己中心の世界から愛の世界へと出て行くというのはとても大きな変化の経験なのです。今までまったく言葉を発しなかった子供が言葉を口にするのと同じくらい大変なことなのです。また当人も焦ることはありません。すでに愛という世界があることに気がついているから焦りを覚えるのです。後は実行する(真似をする)きっかけが与えられるのを待っていればいいのです。いつか必ずその時、飛躍の時が来ましょう。

(新井)

クリスマスも間近になり、今日待降節最後の主日に朗読される福音のテーマは、神の依頼に愛を持って即座に応えたマリアの夫、ダビドの子聖ヨセフの従順です。御父が遣わしてくださった御子イエスキリストのおとめマリアからのご誕生に欠くことのできない役割を果たしています。

マタイ福音書は、ヨセフの人柄と神から受けた重要な役割に焦点を絞っています。イエスがイザヤの預言「見よ、おとめが身ごもって、男の子を産みその名をインマヌエルと呼ぶ。」(イザヤ7-14)の中で述べられている世の救いを成就するために、ダビデの合法的な子孫であるヨセフはイエスを息子として受け入れる必要がありました。マタイはヨセフがイエスの養父であることを明らかにしています。

“インマヌエル” いつでも、どこでも、どんなときにも、共にいてくださる神を心の友、心のより処として、神との親しい交わりのうちに生きる日々は素晴らしい恵みです。これを隣人に伝え、各自の貴重な体験を分かち合いながら生きることはとても大切です。わたしたちは現代の不幸に満ちた世界を神の恵みのうちに、神と共に変えていく使命を持っています。今は、人間相互の憎しみ、家庭内暴力や愛すべき我が子への虐待など最悪のニュースが後を絶たない世の中です。広く世界のあちこちには戦争が起り多くの人が傷つき、倒れ、殺されています。こんなひどい状況の中に幼いイエスは、福音のよい知らせ、慰めに満ちた心温まるクリスマスメッセージを持って来てくださるのです。力の限りを尽くして幼いイエスをお迎えする心地よい場所を一人ひとりのうちに準備しましょう。小さなイエスとの愛の交わりは少しずつわたしたちを変え、イエスに似た者としてくださいます。周りの世界をも変えてくださるでしょう；神のいつくしみと愛、慰めの甘美さを体験させてくださることによって。

小さなイエスのためのお誕生日プレゼント！何を準備しましたか？誰でも素晴らしい贈り物を手にしたときの喜びを知っています。このクリスマス、幼いイエスをお迎えできる感謝の思いをこめて差し上げたい贈り物は何ですか？またあなたが神からいただいたいいプレゼントは何ですか？いつくしみの御父は幼子イエスをこの世に贈ってくださいました。それは人類がこの世で最も必要としているもの、愛に満ちた心です。愛に満ちた心、これこそイエスがわたしたちに望んでおられる贈り物であり、わたしたちが神にお願いしたい贈り物です。これは唯一の本質的な無くてはならないものです。神はわたしたち一人ひとりに、愛、いつくしみ、思いやり、優しさ、赦しに満ちた心を、このクリスマスに、またこれからの日々、一日一日をイエスと共に大切に過ごすために、贈りたいと望んでいらっしゃいます。

(Sr. Paulina)

主の降誕

(ルカ2：1-14)

今日は大きな喜びの日。救い主の誕生を祝う日。天使は不思議なことに羊飼いたち…社会の為政者、宗教的な指導者たち、学者たちのところではなく羊飼いたちのところに、神の大きな恵み救いの恵みを伝えに行きました。神の救いは全ての人々のため…弱い人、小さな人々のことを忘れず、心に留めて下さる神の慈しみ、神の御心があるのですね。主の栄光が周りを照らした…と聖書には記されています。驚くべき光景が、羊たちや、羊飼いの周りに広がったのでしょうか。一体それはどんな光景だったのでしょうか？

マリアとヨセフ。宿屋に泊まる場所がなかった。神の独り子がお生まれになるのに…。でもイエス・キリストは来て下さいました。ひっそり人知れずお生まれになりました。その良き訪れを、天使を通して、神は羊飼いたちに知らせて下さったのです。

あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである…と天使は羊飼いたちに告げました。そして天使の大軍が神を賛美する…。今日の福音、主の降誕（夜半）はこの場面で終わっています。

これまでの場面を一つ一つ思い巡らし、神様の私たちへの想いを受け取りましょう。そしてその想いを胸にしながら、その後、羊飼いたちがイエスのところに向かった様に、イエスのところへ向かいましょう。イエスと出会い、礼拝し、胸に抱いて、心からお迎えしましょう。泊まる宿屋はなかったけれど、私たちの心をイエスのお宿、暖かな布、飼葉桶にしましょう。私たちのささやかな心を受け取り、安らいで下さるでしょう。

クリスマス、ご降誕のみことばの個所をあらためて読みながら、場面をイメージし、想いを巡らす時、お一人お一人、新たな発見、新たな出会いがあるかも知れませんね。

聖堂やチャペル、幼稚園や学校、街中や家、クリスマスの飾りつけで一杯となる時、幼な子イエスを眺めながら、私たちが御父からの贈り物、神の独り子、救い主イエスを喜んで心からお迎えすることができます様に。天使たちの賛美にあわせ、私たちが神を賛美することができます様に。神の平和が私たちのうちにあります様に。私たちが神の御心に適う者となります様に。

(Fr. 古川利雅)

3年前、クリスマスの少し前にひ孫が誕生しました。

2か月余りも早く生まれ、長いこと保育器の中でたくさんの管をつけて生命をつなぎましたが、お蔭さまで現在は元気にしっかりと育ててくれていて、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

体の大きさなどはどうしても及びませんが、その代わりと言っては何ですが、大変におしゃべりが達者です。3歳にもならない自分と知ってのことかと、唾然とするほどに複雑な感情を交えた巧みな会話をこなします。

先日久しぶりに会い、感じ入ることがありました。

先ずは特筆するのですが、ひ孫には父と母が1人ずつ、祖父が2人、祖母が2人、曾祖父が2人、曾祖母が3人います。こうして書き並べてみるとあらためて長寿の国日本を思い知るのですが、数の多さもさることながら、そこに加えて呼び名の多様さも昨今尋常ではありません。私たちの幼児の頃のように、単純におじいちゃんおばあちゃんと呼んでいてはことが足りません。それぞれ固有の呼び名が多彩をきわめ、見分け覚える身の大変さを思いやるとき、申しわけないような気がします。

その時、私とひ孫は自動車のカタログのような広告のチラシを見ながら、どれが好き？これいいねと陽気に楽しくおしゃべりをしていました。

実は何を隠そうこの私も「ひばちゃん」という呼び名を教えてはいたのです。

しかし、ひ孫の方は年に2、3回顔を合わせる「ひばちゃん」を覚えきれないのか、はたまた面倒なのか、自分の方からごく簡潔に「おばあちゃん」と呼んだので、私もそれになりました。

彼は赤いスポーツカーを指さして、これがいいというので、「格好いいね ジョー君は元気がいいから赤が似合うよ おばあちゃんはジョー君よりちょっとだけ元気がないから このシルバーにするね」とこたえました。

そうしたら彼は紙面から目を上げて、生き生きとした真剣な面持ちで、優しい声で言ったのです。「あのね かつかはおばあちゃんなの」 かつかとは、彼の家の近くに住んでいて、いつも一緒にいるもう一人のひいおばあちゃんのことです。私はとっさにわけがわからなかったのですが、瞬間はっとして気が付きました。「おばあちゃん」という一般的な名称、概念というようなものを彼は把握していて、どうやらそれは私とかつかが当てはまるらしいのです。

要するに彼は、私とかつかは「おばあちゃん」だと認識しているのです。

ということは、彼にとっての2人のほんとうの祖母たちは、「おばあちゃん」の

範疇には入らず、教えられている呼び名も「おばあちゃん」ではありません。

ひ孫は保育園に通っています。

絵本を読んでもらったり、小さいお友達と遊んだりの社会生活を営む中で、さまざまに言葉を聴き、さまざまに言葉を交わしながら、彼なりに「おばあちゃん」を理解し体得したのでしょう。

そういえば、公園に遊びに行く道すがら、傍らを若い女性が急ぎ足に通り過ぎて行ったとき、彼は私を見上げてにっこりして言ったのです。「ママが走って行ったね」。

自分のママと同年の女性は、誰でもみんな「ママ」という範疇に入ります。私はひ孫の言葉を理解しました。私はほとほと感じ入りました。

言葉を覚える、言葉を知る、言葉を操る・・・。

ヒトは、言葉を持って人となるといいます。今あらためて言葉の世界を思い巡らし、その豊かさ、複雑さに眩惑されます。

聖書、詩、小説・・・思想、学問・・・およそ人が生きることのあらゆるコミュニケーションは、言葉に依っています。また一方私たちは、氾濫する言葉のあまりの豊饒さに埋もれてしまい、大切な何ものかの欠落を感じ、言葉ではない言葉を探し求めるのです。そして、遂には言葉の持つ究極のもの沈黙を知り、深く身を沈めるのです。

その昔、私たちが天まで届かせようとバベルの塔を思い計ったりしなければ、言葉の世界は一体どのようなものであつたらうと、ふと夢見る思いも深くあるのですが、生まれて3年にもならない幼児の、もてる限りの感性と知恵のありように、その健気さに感動し、圧倒されます。

ジョー君は、いよいよ言葉の中に人生を深め、外国を知り世界を知り宇宙を知って謳歌することでしょう。それでもなお、言葉の限界、足りなさに呻吟して、切ない恋文をしたためることでしょう。

ジョー君の正真正銘の「おばあちゃん」は、泣きたいほどの希望の内に、今、彼方へと思いをはせます。

いのちの言葉 12月

神は来て、あなたたちを救われる。

(イザヤ 35.4)

今月のみ言葉の「神は来て…救われる」には現在形が使われています。「神が来る」のは今この瞬間であって、明日や世の終わり、または来世を待つ必要は全くないことを示すためです。

神は直ちに実行される御方。愛には躊躇もなければ、迷いもありません。

預言者イザヤは、捕囚の身から一刻もはやく解放されて祖国に帰還したいと一途に願うユダヤの民に向けてこの言葉を語ります。

クリスマスを待っている私たちには、天使を通してマリア様に告げられた、「主があなと共におられる」(ルカ 1.28)という救いの約束が思い起こされます。

天使はマリア様に、救い主の誕生を告げ知らせました。救い主は、人類の歴史に決定的なかたちで介入し、私たちを救うためにこの世に来られたのです。

では、何から、私たちを救われるのでしょうか？ それほどの危険に私たちはさらされているというのでしょうか？

その通りです。でも、私たちは危険を意識する時もあるれば、そうでない時もあります。直接自分の身に降りかかる場合は別として、私たちには、苦しんでいる人や助けを必要としている人、憎しみや対立の内にいる人々に対して、無関心で自己中心的になる危険性が、常にあるからです。

人々の心は病んでいます。病んでいる私たちをご覧になり、憐れに思われて神さまは介入されるのです。そして御自ら、ご自分が創られた者のところに来られ、一人も失われることのないように手を尽くして下さいなのです。

神の御手は、今まさに、溺れかけようとしている人に差し伸べられる手のようです。私たちは、差しのべられる神のみ手に毎瞬間しっかりしがみつき、信頼してその導きに従うことができるのです。

神さまは、自分のことだけを考え、他の人に心を閉ざしてしまいがちな私たちの心を癒すだけではありません。助けを必要としている人、悲しみや試練にある人に私たちも手を差し伸べることができるよう助けて下さいます。

キアラ・ルービックは語ります。

「そうなさるのは、もちろん歴史上のイエス、あるいはキリストの神秘体の頭としてのイエスではありません。『もう一人のイエスとなった私たち』、つまり『もう一人のイエスとなった私であり、あなた』なのです。

人が神の恵みの内にある時、イエスご自身がその人の内におられ、(例えば)橋を架け、道路をつくります。このように、もう一人のキリスト、キリストの神秘体の一員として、人は、それぞれに科学、芸術、政治、マスメディアなど、社会のあらゆる分野に独自の貢献をもたらしていくことができるでしょう。」¹と。

こうして、人は、この世界を創造された神の救いの業に協力する者となれるでしょう。

ロベルトの体験をご紹介します。彼は「自分を救い出して下さった」お方との出会いによって、今度は「救う」者へと変えられました。

今年の4月ローマで行われたマリアポリにフランシスコ教皇がおいでになりましたが、そのとき彼が教皇さまに分ち合った体験です。

「私は、長い刑期を終えて新たな人生を始めたいと願ひ刑務所を出ました。でも、世間の目は冷たく仕事を探しても門前払いが常でした。物乞いをしながら7か月間浮浪者でいたそんなある日、アルフォンソに出会いました。

彼は受刑者の家族を助ける活動をしていて、『もし、新しい人生を始めたいなら、私のところに来なさい』と声をかけてくれました。その後、彼のもとで、受刑者の家族を訪問し援助金を渡す手伝いを始めて1年になります。

私にとってこれほどの恵みはありません。受刑者の家族に自分の姿を見る思いです。絶望の中で、ほんの僅かな慰めと愛をくれる誰かを待ちながら幼い子供と家にいる女性たちの中に、人間の尊厳を見ます。

私も、自分を与えることで、人としての尊厳を見出すことができました。私の人生には意味があります。私は強い力を感じます。神が私の心の内におられ、私は神から愛されていると強く感じるからです…」

ファビオ・チャルディ神父

*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

関東 12月11日(日) 13:30 ~ カトリック藤沢教会(神奈川) 204号室
(週日に吉祥寺・鷺沼・戸塚・厚木・千葉・浦和・鹿沼でも)

中部 12月11日(日) 14:00 ~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

▶詳細は各フォコラーレセンターまで。

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

¹キアラ・ルービックがフォコラーレの若者たちに語った「見捨てられたイエスと現代社会の文化的暗夜」より抜粋

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2016年11月3日

イタリアで地震、カルメル会修道女達が暫定的に避難

10月30日午前 7時 41分に起きた強い地震により、いくつかの跣足女子カルメル会修道院が大きな被害を受けたことを、ソーシャル・ネットワークによって知りました。地震による被害が特に大きかったのは、ファノ、ペスカラ、トレンティノの三つの共同体です。最初の二つの修道院は、有難いことに、それほど深刻な被害はこうむらなかったのですが、不幸にもトレンティノの修道院では、破損がひどく、そのため、共同体は一時的に修道院を離れざるを得なくなりました。

トレンティノの修道女達は、今後の修道院に関する法的措置について決定がなされるまで、ファノの共同体にテレジア的かつ福音的な態度をもて受け入れられました。

修道女たちは、非常に多くのイタリアの共同体からの受入れの申し出を受けたことに感謝しながら、前述の修道院に落ち着くことになりました。彼女達のために祈り、早期にトレンティノの修道院にもどれるよう主にお願ひ致しましょう。



跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

03//11//2016

Carmelite sisters in Aleppo

On 22nd October, a distressing picture spread through social and communication media: a missile had fallen into the kitchen garden of the Discalced Carmelites of Aleppo in Syria, although it did not explode, thanks be to God.

When the Fr. General contacted Mother Anne-Françoise, she communicated that the sisters were absolutely fine despite the impression given and that the missile had not caused any material damage. The Mother Superior promised to send updates, which we will relay through this channel and our own social networks. She also said that they had felt themselves to be protected by St. John Paul II, whose feast day was celebrated that very day.

We will continue to pray for our sisters in Aleppo and for peace in Syria.



糸巻き棒からペンへ(15)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え



エドゥアルド・サンス OCD

テレジアは、これを知り、悲しみました。「その知らせは、私を驚かせました。…その可哀想な少女を哀れに思いました。…私たちが使徒たちのように、この地上の主人たちではなく、貧しい者たちを誇りにするよう、主は望んではならないのでしょうか。…カシルダに神の祝福があるように。…すべてができ、態度をすぐに変えるこの世の主人たちから、神が私を解放してくださいように」(手紙 391・2～)

市民団体ばかりでなく宗教団体も、(婚姻外の非合法で生まれた子どもではないこと、ユダヤ人やイスラム教徒やジプシーやインディオや黒人の子孫ではないことを示す)「血の純潔」の証明書を、志望者に要求しました。しかし、聖女はこのような基準を『会憲』に持ち込むことを許可しませんでした。この名誉(名声、社会的認知、しきたり、偏見)の奴隷状態を克服した時にのみ、私たちは、多くの人々を引きつける一部の人にはつまずきをもたらす一霊の自由について理解することができるのです。

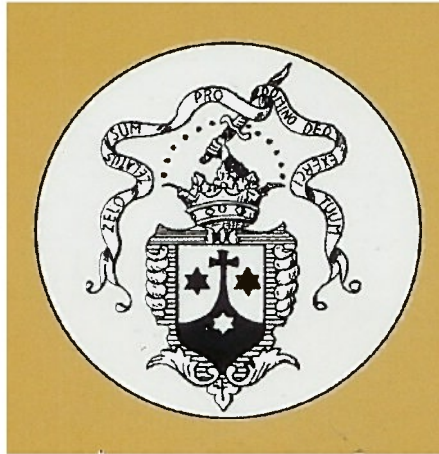
女性差別

時代を先取り、テレジアは、女性が、男性の庇護のもとにいなくとも、養成を受け、自分自身で何でも決定できることを、力強く主張しました。このことは、多くの困難を引き起こしましたが、聖女は断固たる態度でそれらと対決しました。この領域では、彼女は私たちの社会にとって模範となります。現代社会も、各人がその能力を発展させ、性や人種や社会的経済的状态とは無関係に、自主的にさまざまなことを決断できるために、各人に同等の機会が与えられるよう、なお前進しなければならないからです。

情報のグローバル化に慣れた私たちに、インターネットは、次のような事実を知らせてくれます。すなわち、現代においてもある国々では女性が車を運転することが、他の国々では教育文化に近づくことが禁止され、さらには男性の同伴なしに女性は町へ出ることができないといったことを。私たちの心が痛むイメージもあります。なぜなら、女であることがこの地球のある地域では有罪判決を意味することを、私たちに意識させるからです。アフガンの女性たちは、全身をブルカで覆うように義務づけられますが、北アフリカの少女たちは、外生殖器の切除を受けなくてはならないのです。

(続く)

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

2016年

12/9 (金)、12/22 (木)

2017年

1/12 (木)、1/27 (金)、2/9 (木)、2/24 (金)、3/9 (金)
3/24 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

12月27日(火) 18時～2017年1月5日(木) 朝 福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2016年

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

6. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。
間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば
幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時： 2016年 12月 9日(金) 午後1時30分~午後4時

12月22日(木) //

1月12日(木) //

1月27日(金) //



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 列福感謝ミサのお知らせ

カルメル会士で、ノートルダム・ド・ヴィの創立者
尊者幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父は今年の11月
19日に南フランスのアヴィニョン教区にて列福されること
になりました。それを記念して、日本においても列福感謝
ミサを行います。多くの方々とこの喜びを分かち合いたい
と思いますので皆さま奮ってご参列下さい。

2016年12月10日(土)

10時30分 開始

カトリック上野毛教会聖堂

森一弘司教司式

男子跣足カルメル修道会
ノートルダム・ド・ヴィ 共催
カトリック上野毛教会 協賛

ミサ後に信徒会館でお祝い会があります

この世界と人々のために、私たちができる
もっとも大きな愛の行為とは、聖人を与えることだ。
それが他の人であっても、また自分自身であっても。

(幼きマリー・エウジェンヌ神父の言葉。1961年)

上野毛教会所属信者以外の方は、席に限りがありますので
参列ご希望の方は必ずお申込みください

申し込み・問い合わせ

列福感謝ミサ受付担当(ノートルダム・ド・ヴィ)

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail kinenmisa1210@gmail.com

※列福感謝ミサ専用メールアドレスを設けました。

メールでのお問合せ・申し込みはこちらのアドレスをお願いいたします。

背景の写真
マリー・エウジェンヌ神父の遺骨が安置
されているノートルダム・ド・ヴィ聖堂



NOTRE
DAME
DE VIE



2016年 黙想会案内

(宇治カルメル会)

【キリスト教霊的同伴】 (金曜日：夕食なし) 午後8時～午後3時まで
12月2日～3日(土) 松田浩一神父

【待降節の黙想】

12月10日(土)～11日(日) 夜露のように静かに訪れる神を待つ
(午後5時～午後4時) 中川博通神父

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】

12月13日(火)～14日(水) (午後5時～午後4時)
十字架の聖ヨハネの霊性(2) 松田浩一神父

【奉献生活者の黙想】

12月27日(火)(午後5時)～1月5日(木)(午前9時) 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(土)～12月25日(日) {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会個人黙想も歓迎いたします—
☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴**(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

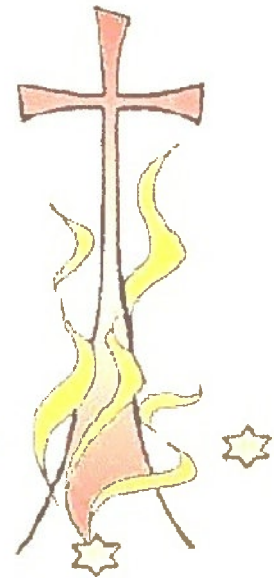
【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土) 終了
3月18日(金)～19日(土) 終了
6月 3日(金)～ 4日(土) 終了
7月 8日(金)～ 9日(土) 終了
9月 2日(金)～ 3日(土) 終了
10月21日(金)～22日(土) 終了
11月11日(金)～12日(土) 終了
12月 2日(金)～ 3日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

十字架の聖ヨハネの祭日ミサと講話のお誘い

十字架の聖ヨハネの 神と隣人に開かれた人間

2016年12月14日（水曜日）午前9：30～11：45

場所：カルメル修道会宇治修道院の聖堂

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：献金

交通：JR 奈良線六地蔵駅・市営地下鉄東西線六地蔵駅

徒歩 15 分・タクシー 5 分

京阪六地蔵駅 徒歩 20 分・タクシー 7 分

お問い合わせ

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp





クリスマス祭日ミサ（降誕祭ミサ）のお誘い

クリスマス祭日の典礼を修道院で過ごしながら、参加してみませんか。

12月24日（土） pm 5：00 降誕祭・前晩の祈り

ご聖体顕示

pm10：00 降誕祭（夜半）ミサ

12月25日（日） am 6：30 降誕祭（早朝）ミサ

Am 9：30 降誕祭（日中）ミサ

<ミサ後、ティー パーティ>

- 宿泊施設：修道院敷地内の聖テレジア修道院（黙想）
- チェックインは12月24日（土） pm4：00以降可能
チェックアウトは12月25日（日） am11：30
- 12月24日（土）の夕食と12月25日（日）朝食あり
- 費用：5,000円

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大室 4-5-17
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

《 名古屋一日静修 》



三位一体の聖エリザベトの祈り

—現代人へのメッセージ—

1. 日時： 2017年1月21日(土)： 「祈りと平和」 九里 彰神父

3月20日(月) 未定、5月20日(土) 未定、7月17日(月) 松田浩一神父、9月23日(土) Sr. 片山はるひ、11月23日(木)

場所：カトリック日比野教会 信徒会館
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)

1. 参加費：1000円
2. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
3. プログラム
10:00 導入の祈り(聖堂)
10:20 第一講話(信徒会館)
11:20 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食(信徒会館)
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷 ③
14:30 ミサ(聖堂)
15:30 茶話会(信徒会館)
16:00 終了の祈り
4. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX/0568-62-5167
mail/seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田1-26
「名古屋一日静修」係

《一日静修2016年特別黙想会》

日時：2016年12月3日(土)午後5時受付～4日(日)午後4時

場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里 彰神父

* どなたでも参加できます。

申し込み：同上の「名古屋一日静修」係へ。

申し込み締切：11月26日(土)

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

Selon Bienheureux
LE PÈRE MARIE-EUGÈNE
DE L'ENFANT JÉSUS

聖母文庫

11月下旬発売予定!

マリー・エウジェンヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる いのりの道

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 207頁

わたしは神をみたい

いのりの道をゆく

マリー・エウジェンヌ神父とともに

伊従信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁

祝 列福を祝って…!!

福者マリー・エウジェンヌ神父
2016年11月19日

◆11月19日(土) 列福式: フランス・アヴィニオンにて

◆12月10日(土) 列福記念ミサ(予定): 東京上野毛教会にて
-カルメル会・ノートルダム・ド・ヴィ共催-

福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195 【聖母文庫】

定価**540**円(税込)



ご注文
承り中



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☎ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
☎ 0968.85.3100
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心のテーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度:倫理と霊性の基礎づけⅡ近代・現代
冬学期:10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5
11/12, 11/26, 12/3, 12/17
2017/1/7, 1/14, 1/21, 1/28

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内 Kulturl-Haus 2F 聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切は、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内 Kulturl-Haus 1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
2017年1月29日(日)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 11/4 父と子と聖霊— 神の生命に与る
 11/11 信仰の決断— 支えられて生きる
 11/18 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
 11/19-20 ●黙想会(上石神井)
 11/25 自己実現と神の意志— 生き方の規範
 12/2 人間の弱さ— 罪とは何か
 12/9 恵みとゆるし— 神の憐みを受ける
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17:30
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)
 12/16 愛の心— キリスト教の本質
 12/23 ◆クリスマスミサ(14時、上智大学内ク
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
 12/25 ●クリスマス黙想(18時50分-20時10
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)
 1/6 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
 1/13 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
 1/20 霊の動き— 福音による生き方
 1/27 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰
 2/3 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想
 の仕方
 2/10 結婚と独身— 愛の道
 2/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
 2/18-19●黙想会(上石神井)
 2/24 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄
 与して働く
 3/3 人間の苦悩— 悪とは何のためか
 3/10 死— その受け入れと克服
 3/17 人生の完成— 神の内に生きる
 3/24 聖母マリア— 信じる者の原型
 3/31 限りのない救い— 匿名のキリスト
 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

キリスト教理解講座 2016-17年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [聖霊]
 12/6 神の内的現存— 人間における聖霊の働き
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)
 12/20 三位一体の神— 救いの構造から神内
 の存在へ
 12/23 ◆クリスマスミサ(14時、クルトゥルハイム2
 階聖堂、定員80人)
 12/25 ◆クリスマス黙想(18時50分-20時10
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂)
 [教会]
 1/17 信仰者の共同体— 教会の本質
 1/31 救いのしるしと実現— 秘跡の意味
 2/18-19 ●黙想会(上石神井)
 2/21 「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリ
 スト
 3/7 人間と世界の究極の未来— 終末の
 約束
 3/21 信仰者の原型— 聖書に見られるイエ
 スの母
 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

講話と祈りの集い

祈りの集い特別プログラム

クリスマスの集い

～福者 幼きイエスのマリー=ユジェーヌ神父と共に～

12月18日（日）午後2時～午後6時

担当：ノートルダム・ド・ヴィ会員

講話：片山はるひ

講話・祈り・お茶・質問・分かち合い・祈りのタペ

参加費 200円

※通常の集いのテキストは使いません。

神は愛によって わたしたちをつくら
れました。愛である神は ご自分を与えない
ではられません。

幼きイエスのマリー=ユジェーヌ神父



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com



詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
入門C	2017年 1/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5918-9870
サダナI	2/9(木) 9:30- 2/11(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※
フォロー アップ	2/26(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナII	3/16(木) 9:30- 3/20(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナI (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナII

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自己史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ

サダナIを終えた方。

◆入門C

入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金)～ 5月14日(土)
- ② 8月14日(日)～ 8月22日(月)
- ③ 10月19日(水)～ 10月27日(木)
- ④ 12月27日(火)～ 2017年1月4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金)～ 2月7日(日)
- ② 2月26日(金)～ 2月28日(日)
- ③ 3月18日(金)～ 3月20日(日)
- ④ 6月17日(金)～ 6月19日(日)
- ⑤ 7月22日(金)～ 7月24日(日)
- ⑥ 9月16日(金)～ 9月18日(日)
- ⑦ 11月18日(金)～11月20日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月30日(月)～ 6月7日(火) 中川博道 師（カメル会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

神のいつくしみを生きる

—罪と恵み—

2016年度 第3回 青年黙想会

日時： 2月18日 (土) 15:00 ~

19日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年2月12日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

12月15日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第3の歌

【2017年予定】

1月19日(木) 『霊の賛歌』 第6回目：第4～5の歌

3月16日(木) 『霊の賛歌』 第7回目：第6の歌

5月25日(木) 『霊の賛歌』 第8回目：第7の歌

7月20日(木) 『霊の賛歌』 第9回目：第8の歌

9月21日(木) 『霊の賛歌』 第10回目：第9の歌

11月16日(木) 『霊の賛歌』 第11回目：第10の歌

12月21日(木) 『霊の賛歌』 第12回目：第11の歌

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

<<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

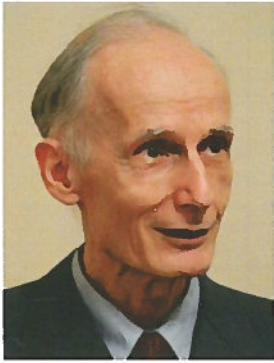
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 — 宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 — 聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い — キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 — 哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 — 根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わり薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

暴言を吐いていたトランプ氏がアメリカ大統領に選ばれた。日本だけでなく、世界中の国々が想定外の結果に驚いた。貧富の格差に不満を持つ多くの白人労働者層を取り込んだ形となったようである。黒人、ヒスパニック、アジア系住民との人種的軋轢の増すことが危惧される。

いずれにせよ、アメリカ第一主義を基軸にさまざまな政策を展開していくものと思われる。経済政策では、日本企業に対する風当たりは強くなるだろう。不買運動は起こさないにしても、関税を高くして、米国製品が売れるようにさまざまな規制をかけてくることと思われる。軍事・外交面では、安保ただ乗り論に立ち、日本により多くの負担を求めてくることだろう。自分の力で自国を守るように、自衛隊などではなく、憲法を改正し、海外派兵し交戦できる軍隊を、また核保有を求めてくることが考えられる。これもまた膨大な出費を削減したいからであろう。

要するに、米国民は、自分たちの生活のために、政治家ではなくビジネスマンを選んだというというのが真相ではないだろうか。戦後日本を実質的に支配していたものの考え方、すなわち、この世はお金であり、自分さえよければ後はどうでもかまわないという自己中心的なものの見方が表面に躍り出た感がある。 (P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「1月号」製本日 **12月20日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール 1階
12月製本日程は特別になります。ご注意ください。 午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171